

新収古文書の紹介

和歌山高等女学校教諭

竹之内喜八郎資料

昭和七年（一九三二）から終戦直前に徴兵されるまで和歌山県立和歌山高等女学校などで音楽教員を勤めた竹之内喜八郎の遺した資料が、令和四年四月に寄贈されました。

竹之内喜八郎は、明治四十年（一九〇七）に群馬県前橋市に生まれ、昭和二年に群馬県師範学校を卒業後、同県内の尋常高等小学校の訓導を勤めていましたが、昭和五年、東京音楽学校（現東京藝術大学音楽学部）に併設

されていた第四臨時教員養成所に入学します。同養成所は、当時不足した師範学校・中学校・高等女学校の音楽教員を養成するため、大正十一年（一九二二）から昭和七年までの一〇年間だけ設置された国立施設でした。一九二名の受験者から選ばれた竹之内ら二五名の第九期生は、同養成所最後の卒業生です。

昭和七年三月、竹之内は、同養成所の卒業と同時に文部省から和歌山県への赴任を命じられ、和歌山県師範学校訓導・同県立和歌山高等女学校（和高女）教諭兼任となり、昭和十一年から和高女専任教諭となりました。

また、第四臨時教員養成所在学中から作曲家として活動し、群馬童謡詩人会などで作品を発表していました。和歌山県に赴任してからも、公務の傍ら国内の作曲家団体である大

日本作曲家協会に所属し、和歌山童謡詩人会、大阪童謡芸術協会の活動に参加して童謡の作曲を行い、県内の少年団歌や警防団歌、幼稚園園歌を作曲するなどして活躍しました。

しかし、終戦直前（年月日不明）に徴兵され、朝鮮半島北部で戦死してしまいました（記録上は昭和二十年八月十五日没）。

寄贈された資料約一四〇点は、竹之内の作曲家及び教員としての足跡を伝えるもので、楽譜類七〇点余、写真三〇点余、辞令類二〇点余及び履歴書・遺書などです。

和歌山県内外における童謡運動や、作曲家が戦時下で果たした役割を伝える資料として、また教育史資料として、重要かつ興味深い資料群です。